

# WRO 2011 Abu Dhabi

## 大会報告

平成23年12月  
うさかロボット研究会

WRO 2011 Abu Dhabi  
「サンダーバード 14 号」  
コーチのつぶやき

11月18日(金)、午前4時(現地時間)すぎ。12時間のフライトを経てアブダビ国際空港に到着。入国審査などは問題なく通過し、5時半、バスに乗りホテルへ向かう。相変わらず、向かうホテル名は不明のまま。

まさに「ミステリー・ツアー」バスの乗ること約40分。

着いたホテルは「インター・コンチネンタル・ホテル」。予想以上のホテルだ。

ホテルに到着後、さっそく車体の組立練習。2度目(機内食で朝食が出た)の朝食後、練習のため、大会会場へ向かう。

バスで30分弱のはずだが、乗せ忘れたチームがあったため、ホテルに逆戻りしたり、運転手が道を間違えたのか、同じ道を何度も通ったりしたため1時間後に到着。

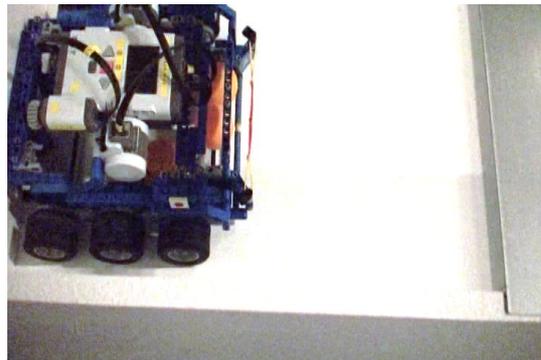
会場は、すでに大会の準備ができており、練習は本番と同じ環境で出来るようだ。

過去の大会では、ホテルなどに設置された仮のコース使用をしていたが、今回は本番コース、しかも時間もたっぷり。

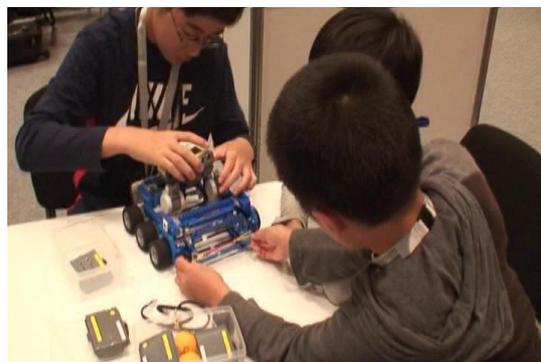
車体の組立、コースの確認(コース内の通路の幅、コース内を仕切るパーテーションの強度など)した後、作戦会議。初日は3回のラウンドのベストポイントを競い、同ポイントの場合はその走行タイムを競うことになっている。つまり、3回のうち1回の成功でも上位に行く可能性がある。



今回、サンダーバード・チームは、3つの戦術を用意してきた。1番目は、ロボットが回転した後、いったんバックして壁を利用して正確に姿勢を整える。2番目は、パーテーションが多少移動することを考慮し、1番目の作戦のうち、パーテーション側には後退せずに進行する。3番目は、バッテリーを充電バッテリーから乾電池に変え、電池のパワーで走行タイムを縮める。



作戦会議の結果、ラウンド1から3まで、作戦1から3までを順に実行することにした。



その後、練習を開始したが、大きな問題もなく練習が進み選手にも少し余裕が出てきた。6年生の横畑君に提案で、ゴール後折り返してスタート地点まで戻る往復のプログラムも準備した。

正午からコーチミーティングが始まる。

毎回、小、中、高の部門ごとに行うのだが、今回は合同。コーチミーティングは、いつも荒れる。各国のコーチは、自分たちが有利になるようルールを解釈を曲げようとする。今回は、意外と静か。大きな変更もなく、明日のサプライズルールの発表を待つことになる。



長旅の疲れもあるため、練習を早めに切り上げ、4年生の2人は、持参したメンコで遊びだす。日本からのお土産にと他国のチームにプレゼントする予定だ。2人ともメンコで遊ぶのは始めたらしく、夢中になっていた。その様子を見ていた UAE チームの選手にメンコを渡して、遊び方を教えると、一緒に楽しそうにやっている。



夕食を取ってホテルに帰り、早めに就寝。

11月19日(土)。大会当日。午前5時、起床。5時30分、選手を起こす。朝食をとりバスで大会会場へ。アブダビ市内は、霧がかかって幻想的。昨日の半分くらいの時間で会場へ到着。手際よくピットの準備をし、観客席を確保。

午前9時、サプライズルールの発表。ピンポン玉の数が増えたことと、ピンポン玉の位置が変わった。サプライズルールの書かれた紙が配布され、選手とコーチが10分間ミーティング。コースのレイアウトが車検の後に変更されることも書かれてある。

つまりプログラムを調整した後にコースレイアウトが変更されるため、どんなコースでも走行できるプログラムが必要だ。でも、すべて準備はできている。選手も安心した様子。

不安な点や問題点はないかと確認したところ、全員で「ありません」。力強い言葉。頼もしくなった。

10分間のミーティングが終了し、コーチは、観客席へ。これで選手とコーチは一切のコミュニケーションをとることが禁止される。最後に、選手に落ち着いてやれと、ジェスチャー。でも、きっと落ち着いていないのはコーチのほうだろう。

開会式前は、MCが各国をコール。合わせて観客席で国旗が打ち振られる。地元UAEはもちろん、中国、台湾、韓国、マレーシア、フィリピンが元気だ。日本チームは、バラバラに着席しているため、今一つ。毎回感じているが、日本チームをまとめる力が弱い



開会式。いよいよ開幕。そして競技開始。

第1ラウンド開始。「サンダーバード」は、予定通りの作戦。観客の位置からはコースの周囲の壁が高いためコース内がよく見えない。ゴールインしたとき、選手のホッとしたような様子。完走できたようだ。結果は、ポイント満点で完走。いいスタートができた。

その後、第2ラウンドも作成通りで満点完走。ここで途中結果の成績発表。第2ラウンドを終えて「サンダーバード」。なんと第1位!

驚きとうれしさ。しかし、強敵の台湾、マレーシアがこのままでは終わらないだろう。

上位チームは、ポイント満点は当たり前。走行タイムの勝負になりそう。

「サンダーバード」、第3ラウンドも満点完走。

素晴らしい成績で初日を終わることができた。

競技終了後、選手に確認すると、第1ラウンドで、ボールを取りそこなったが、そのボールが転がっていった先で、再度キャッチすることができたそうだ。今までにこんなことはなかったので、選手は「奇跡が起きた」と言って喜んでいて。

3人そろって握りしめていた、鶴坂神社からいただいたお守りのおかげだろうか。きっとそうだ。

第3ラウンドまでの結果は、翌日の発表になった。点数の集計ミスがあり、再点検しているためだ。



POSITION	TEAM
1	THUNDERBIRD14
2	UNEVEN ROAD
3	MI-2
4	CUTTING CORNERS
5	DOUBLE STRIKE
6	JD ROBOTICS



11月20日(日)。大会2日目。会場へ向かうバスが遅れて出発。街中は車でいっぱい。日曜日だが、この国では週の始まりのようだ。

選手に「今日のコースは、昨日の場所と違うかもしれないから、コースの状態をよく確認するように」と言ったら「最初の日に、全部のコースを調べておいた」とのこと。

コーチがいない間に、準備されているコースを全部回って、試走させていたようだ。

驚くほど落ち着いて、たくましい選手。コーチにとってこれほどうれしいことはない。

会場に着き、ピットの準備をしようとする。コーチは立ち入りできないと締め出された。

昨日の成績が発表される。第4位で、ベスト16に残る。ほっと一安心。

ベスト8をかけたラウンド。今日は、最初から乾電池を使用して、タイムを稼ぐ作戦。

選手に落ち着いて行けと指示するが、相変わらず落ち着いていないのは、コーチのみ。選手は、落ち着いて、楽しそうにしている。「サンダーバード」は、今回も、満点完走。

昨日から、4回連続の満点完走。合計得点なら完全にトップだ。



Results Regular Category- Elementary			
1	SJK TAMPOL		
2	JD ROBOTICS	Malaysia	120 - 20.84sec
3	DOUBLE STRIKE	Malaysia	120 - 24.00sec
4	THUNDERBIRD14	Ukraine	120 - 31.97sec
5	HUIZHAI CENTER PRIMARY SCHOOL	Japan	120 - 35.06sec
6	UNEVEN ROAD	China	120 - 35.00sec
7	MI-2	Taiwan	120 - 39.00sec
8	AUTO TECHNOLOGY ORGANIZATION	Russia	120 - 40.00sec
		Taiwan	120 - 47.00sec

WRO UNITED ARAB EMIRATES 2011 الإمارات العربية المتحدة 2011 Robots for life improvement

順調に進みかけたが、途中リタイアのマレーシアチームのコーチから猛烈な抗議が審判に。練習したコースと競技のコースが違っていたので、やり直しをさせろと言っているらしい。

「サンダーバード」も、練習コートとは違うコースで競技をやって、満点完走しているのに。それが実力だろう。

しかし、猛抗議がきいたのか、審判は、希望するチームには再競技を認めてしまった。それに対して、台湾チームからそれはおかしいと猛抗議。台湾チームのところへ行って様子をうかがいながら、そうだと思うが、一緒に抗議するだけの英語力がないのが情けない。

結局、マレーシアチームなどが再競技をおこない、完走したチームもいくつか出た。

そして、成績発表。「サンダーバード」第3位。ちょっと欲ができた。

そして、ベスト4をかけた競技開始。

相変わらず順調にゴールしたかに見えたが、ピンポン球を1個取りこぼしていたようだ。

完走したが、満点ならず。選手も悔しそう。

競技結果発表までの間、お守りを握りしめて、お祈りしている。

結果は残念! ベスト4へ進めず敗退。ベスト4のチームはすべて満点完走。1個のボールが明暗を分けた。

約4か月間、一生懸命練習してきた競技が終了。7月末にチームを結成した時から、素晴らしく成長した選手たち。



表彰式、閉会式。

成績発表。結果は第6位。2009年の韓国・浦項大会の「サンダーバード38号」の8位以来の入賞。

優勝したのは、台湾チーム。スピードは「サンダーバード」とほとんど同じのはず。悔しいが、戦略は間違っていなかったと確信する。

まずは先輩の成績を超える目標は達成。

あと一步でメダルというところだったので悔しい思いもある。それぞれ次の目標を持って進んでいってほしいものだ。

どこよりも多く練習してきたと自負するこのチーム。保護者、スタッフ、地域のみなさんの支援のおかげで、今年も国際大会に参加でき、良い思い出を残すことができた。

みなさん、ありがとうございました。

Position	Team Name
6	THUNDERBIRD
7	JD ROBOTICS
8	TRIPLEDAGON



#### サンダーバード・チーム

横畑大樹（富山大学附属小学校6年生）  
加藤彰隼（富山市立神保小学校4年生）  
吉田 峻（富山市立鶴坂小学校4年生）  
島田敏一（コーチ）

